

猪之頭の湧泉群

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 鮫島, 輝彦 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00006032

猪之頭の湧泉群

鮫島輝彦*

芝川はその源を富士宮市猪之頭の湧泉に発している。猪之頭は恐らく井之頭より転じたものと考えられ、馬蹄形にめぐらした熔岩崖の各所から総量6トン/秒以上の豊富な湧泉があり、富士山麓の湧泉中三島湧泉群に次ぐ大規模のものである。

猪之頭湧泉群はこの豊富な水量と殆ど年間を通じて変動のない約9℃という低い水温のために、大規模な県営養鱒池に利用されている。この養鱒場は湧泉群北端の最も優勢な湧泉下に設けられているが、1958年春の異常な渇水期に開場以来初めての湧泉停止に見舞われ大きな打撃を蒙った。場長の依頼で一日この湧泉群の概況を調査したので簡単に報告する。

猪之頭は西方の高峻な天子一毛無山稜に北東方から流下した富士熔岩が突当り東方に開く谷に逆流し、そのため北西・北東及び東方を熔岩崖で囲まれた盆地状の地形が形成された所で、西方から西南方にかけては不透水性の古富士泥流より成る台地があり、脚部を埋没された毛無山嶺の急峻な山腹斜面が屹立する。毛無山、雨ガ岳、根原、大室山、長尾山を結ぶ広大な受水面から浸透し、富士熔岩下を流れる地下川が此所で熔岩崖下に現れて地表流となるものと考えられ、受水面の海拔高度が高いために水温が甚だ低いのであろう。

湧泉は図示の如くほぼ南北2 Km、東西1 Kmの範囲に15個所以上を数え、各湧泉の湧出水量を目測した結果最北端の14, 15が最も優勢で、西南部の6がこれに次ぎ、東南部の4及び中央部の10も優勢である。8の地点では約5 mの高さの滝をつくる熔岩層の下面に多数の湧出点がならび、白糸の滝の規模を小さくした観がある。調査した湧出点の湧出水量の合計は約5.7トン/秒となるが、川床等に調査洩れの湧出点もあろうから、湧出総量は6トン/秒を越えるものと推定される。猪之頭発電所の使用水量は約8トン/秒で、これは湧泉の水量に毛無山嶺から流下する少量の地表水が加わったものである。

1958年春の異常渇水のために湧出停止或は著しい減水が起ったのは、海拔高度の高い北部の11, 12, 13, 14, 15の一群だけで他の湧泉では殆ど影響が

なかった。その限界高度は約707m、12地点では約3m高度差のある上下2湧泉の内上の方は完全に湧れ下の方は殆ど全く影響を受けなかった。普通の年でもこれら北部の湧泉の水量には多少の季節的变化が認められるという。

地下川の賦存状況は電気探査によって明かになし得るが、今回調査の湧泉分布から大まかな推定を行い図に示したが、養鱒場の湧水対策のため同場西北方の熔岩台上に自噴井戸を穿ち得る可能性は充分あるものと考ええる。

湧出量の概測値

1958年12月14日調査、湧出量は目測による、 μ は図の湧出点に対応。

{	1.	50 l/秒	{	5.	50 l/秒	{	11.	100
	2.	40		6.	1500		12.	160
	3.	70		7.	100	{	13.	20
	4.	500		8.	100		14.	1000
		9.	100	15.	1500			
		10.	400	16.	50			

合計 5740 l/秒

猪之頭湧泉群

